



スナックだった物件を、アメリカンな雰囲気のリフォーム。男心をくすぐるインテリアに仕上げた。

アメリカンスタイルの内
外装に、男心をくすぐ
るインテリア。カフェ
「CAMP-A」のマスター、荒
井耕市さんは、昨年匝瑳市へ移
住してきました。店内には子ど
も連れの常連客がいて、とても
アットホームな様子が感じ取れ
ます。

人の温かさを感じる



荒井 耕市さん

東京都出身、大浦在住。自衛官を退官後、夢だったカフェ「CAMP-A」を今年3月にオープン。常連客からは「マスター」と呼ばれ親しまれている。

「自衛官をしていましたが、以前からカフェを開きたいなと思っていて、退官を目前にして物件探しを始めました」という荒井さんが匝瑳市への移住を決意したのは、昨年初夏に物件の下見に訪れたときのこと。
「趣味でバイクにも乗るので、ガレージ付き」というのも魅力だったとはにかみながらも、「その日は曇って、田んぼからこの高台へ通り抜けてきたゆとりとした風が、とても心地良く感じたんです。周りを森に囲まれて、ここから望む景色も素晴らしいので『ここしかない』と思いますね」と話します。

みな良い人ばかり
さらに、「地域の人が良い人ばかりで、温かく迎え入れてく



れたんです」と続けます。
自衛官という職業柄、転動も多く、都会では地域の人の交流もあまりなかったという荒井さん。「ここに来てから地元の付き合いをする中で、集まりでもよく店を利用してもらっています。朝起きると玄関先に野菜が置いてあったこともあり、『これが本来の人の生活か』と思いました。八重垣神社祇園祭では神輿を担がせてもらい、気に入ってしまつて半纏はんてんも買いました」と感動しきりです。
「男の夢」をかなえ、地元に移住した生活を送る荒井さん。「今のところ苦労はない」と言い、「ここに来てみんなが来てくれるので、毎日が寂しくないですね」と話してくれました。

地域の人の声



たけしま 綾香さん(小高)

気に入ってくれてうれしい

最近、匝瑳市へ移住してお店をオープンする人が多いですね。子育て世代には遊びに行ける所が増えてありがたいです。私も「子育ては地元で」と思い戻って来た身ですが、匝瑳市を気に入って新しい人が来てくれるのはうれしいですね。



香取 文雄さん(椿)

若い力で地域が元気に

ソーサプロジェクト SOSA PROJECTの活動に協力しています。移住者がだいぶ増えたようで、そうした人に空き家を活用してもらうのは良いことですね。地域が衰えていかないためにも、新しい人が来てくれるのはすごく良いことじゃないでしょうか。

■匝瑳市にある魅力
地元で生活していると、田舎の不便さなどに目が行きがちになります。しかし、今回の取材を通

市では、「転入者マイホーム取得奨励金」や「空き家バンク」といった施策に取り組んでいます。特に、空き家に関しては、少子高齢化や単独世帯化の進行などから全国的な問題となっている中、市内でも約600戸の空き家があり、移住者を迎え入れる「資源」となるものが相当数存在すると考えられます。
また、今年2月には都内で開いた移住セミナー(匝瑳、銚子、旭の3市合同開催)で、移住者と共に市の魅力をPRした他、来年1月には移住希望者を対象とした海匝地域を巡るツアーも企画しています。

に「そうさ!!匝瑳で暮らそう」匝瑳市への定住促進を進める」を掲げ、定住人口の増加を目指しています。
■空き家を「資源」に

匝瑳市では移住・定住に向けた支援を行っています

市の施策の中から、移住・定住のサポートとなる制度の一部を紹介します。

住宅支援

●**転入者マイホーム取得奨励金**
本市に転入し、新築または中古住宅を取得した人に奨励金（新築最大100万円、中古最大60万円）を交付しています。

●**空き家バンク制度**
空き家を“売りたい、貸したい”と考えている所有者から寄せられた空き家に関する情報を市ホームページで紹介しています。

問 企画課 ☎73-0081

創業支援

●**空き店舗活用支援事業補助金**
市内の空き店舗を活用して事業を行う人に、店舗改装費や賃借料の一部を補助（2年間で最大200万円）しています。

問 産業振興課 ☎73-0089

子育て支援

●**子ども医療費の無料化**
中学校3年生までのお子さんの医療費を保険診療の範囲内で助成しています。

問 健康管理課 ☎73-1200

●**第3子以降の保育所・幼稚園の保育料無料化、給食費の減免**

第3子以降の保育料を無料としています。また、学校給食費は第3子は2分の1に、第4子以降は無料としています。

●**つどいの広場**

3歳以下の乳幼児とその保護者を対象に、親同士の交流、情報交換を行える場を提供しています。

問 福祉課 ☎73-0096

地域を豊かに

「住民と一体となって仕事を創り、Iターンを増やし、地域の文化・伝統・技術を継承し、地域の役に立つこと」を目的に活動する団体が豊和地区にあります。その名もNPO法人「SOSA PROJECT」(ソープロ)。

ソープロは、里山保全活動団体「アルカディア」の会や地元農家の協力を得て、米作りを中心に年間延べ200人ほどの都市住民を受け入れています。

設立は平成23年。『減速して自由に生きるダウンスイーツ』(ちくま文庫)の著者・高坂勝さんらによって立ち上げられました。「拡大社会、経済成長の価値観を変えていく必要があると気付いた」という高坂さん。30歳で会社を辞め、社会的活動などを経て、都内



「SOSA PROJECT」代表の松原さん。古民家を借り、自然とつながる暮らしを楽しむ。

「田舎暮らしのきっかけに」



今年8月にソープロが開いた移住ツアー。都市部からの参加者と移住者宅を回った後、パネルディスカッションなどを行った。

でオーガニックバーを営む中で、アルカディアの会代表の青木さんの活動に参加、「匝瑳の景色に一目ぼれして取り組みを始めました」と振り返ります。平日はバーを開き、週末は匝瑳市で過ごす「地域居住」をする高坂さんも、来年3月には本市へ移住予定。「ローカリゼーション、つまり地域に生きることが豊かになる」ということを伝えていきたい」と語ります。

そして、現在ソープロの代表を

務めるのは、本市に移住して6年目の松原万里子さん。「高坂さんと出会い、初めて米作りを体験しました。田んぼの作業を、めっちゃくちゃ楽しい」と思い、通い続けるうちに匝瑳市に住んでみたくなったのが移住のきっかけ。「今の活動の中心は、my田んぼ」と大豆作り。匝瑳市は都会からも近く、参加者が気軽に訪れてくれます。「私でも田舎に住めるかも」と思うきっかけになってほしいです」と話します。

移住希望者は空き家を探しています。「えっ、こんなボロでも？」という物件こそ、楽しめるものなのよ、若者の夢、希望をかなえるためにぜひ協力ください。



SOSA PROJECT 高坂 勝さん

して、移住者の皆さんは本市の「環境」や「人」に引かれ、普段の暮らしにもそれほど不便さを感じてはならず、むしろ魅力を感じていることが分かりました。

人と人とのつながり、心の豊かさ。地域の魅力を再確認し、新たな価値観も踏まえたまちづくりがこれからは重要です。そこで必要なことは、共に匝瑳を担う仲間として地域の移住者を温かく見守る姿勢ではないでしょうか。

移住に関する市の総合窓口

市では、移住・定住促進に関する取り組みを、企画課まちづくり戦略室(市役所2階)で行っています。

▼空き家を探しています

本市への移住を希望する人から、空き家についての相談が寄せられています。空き家所有者からの空き家バンクへの登録をお待ちしています。

《問い合わせ先》

企画課まちづくり戦略室

☎73・0081